

平成24年度（平成23年度対象）  
教育委員会の点検・評価（案）

平成24年9月  
徳島県教育委員会

## 【目次】

第1章 はじめに	1
1 趣旨	
2 点検・評価の対象	
3 点検・評価の方法	
4 構成	
第2章 教育委員会活動報告	5
1 教育委員会組織	
2 教育委員会の会議等開催状況	
3 その他の活動	
第3章 平成24年度（平成23年度対象）点検・評価項目実績値等一覧表	15
第4章 平成24年度（平成23年度対象）点検・評価概要（基本方針ごと）	23
第5章 平成24年度（平成23年度対象）点検・評価結果	39
基本方針1 社会全体で取り組む教育の実現	41
基本方針2 未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現	48
基本方針3 信頼される教育環境の実現	70
基本方針4 人権尊重社会をめざす教育の実現	81
基本方針5 みんなが学べる生涯学習社会の実現	86
基本方針6 豊かなスポーツライフと人・地域が輝く「あわ文化」の実現	91

## 第1章 はじめに



## 第1章 はじめに

### 1 趣旨

県教育委員会では、「郷土に誇りを持ち、社会の一員として自立した、たくましい人づくり」を基本目標とし、徳島ならではの教育の振興に取り組んでいます。

平成19年6月に公布された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正において、法第27条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このため、県教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民の皆様への説明責任を果たすため、今年度も「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

### 2 点検・評価の対象

点検・評価の対象として、平成23年度における教育委員会の活動状況のほか、「徳島県教育振興計画」（平成20年10月28日策定）に基づく主要施策を対象とすることとしています。

「徳島県教育振興計画」の主要施策については、前年度分の実施状況の検証及び数値目標の達成状況の点検を、毎年度行います。

### 3 点検・評価の方法

- (1) 教育行政の諸施策や事務事業の取組状況について、点検・評価を行い、今後の課題や取組の方向性を明らかにします。
- (2) 点検・評価の客観性を確保するため、外部有識者からなる第三者機関「徳島県教育行政・点検評価委員会」において、ご意見・ご助言をいただきます。

#### ○徳島県教育行政点検・評価委員会委員名簿

(50音順、敬称略)

氏名	役職
栗飯原 一平	徳島県中小企業団体中央会会長
桑原 恵	徳島大学総合科学部教授
坂田 千代子	(株)あわわ会長
中村 昌宏	徳島文理大学総合政策学部長
美馬 育子	阿南市ボランティア連絡協議会会長

#### 4 構成

##### (1) 教育委員会活動報告

教育委員の就任状況や教育委員会の会議の開催状況等について記載しています。

##### (2) 点検・評価項目実績値等一覧表

「徳島県教育振興計画」の6つの基本方針ごとに、重点的に取り組む事業を分類し、表にまとめています。

事業ごとに、現況値、平成23年度の実績値、目標値、その目標値に対する達成率を記載するなど進捗状況を明らかにしています。

##### (3) 点検・評価結果(基本方針ごと)

6つの基本方針ごとに、平成23年度における主な取組を記載するとともに、取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の主な取組と方向性などを示しています。

##### (4) 点検・評価結果

6つの基本方針に分類された事業ごとに、事業目的と平成23年度における取組状況(進捗状況)を記載するとともに、取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の取組及び方向性などを示しています。

## 第2章 教育委員会活動報告





## 第2章 教育委員会活動報告

### 1 教育委員会組織

○委員の就任状況（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

氏名	平成24年3月31日現在の役職	異動状況
西池 氏裕	委員長	H23. 8. 4 委員長就任
水口 鮎子	委員長職務代理者	
佐藤 紘子	委員長職務代理者	H23. 8. 4 職務代理者就任
佐藤 盛仁	教育委員	H23. 8. 3 委員長退任
筒井 直典	教育委員	
福家 清司	教育長	H24. 3. 31 委員退任(教育長退任)

### 2 教育委員会の会議等開催状況

毎月2回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催した。

また、今後課題となる重要な案件について、事前に理解を深めるため、委員協議会を開催した。

#### (1) 平成23年度の会議開催状況

定例会：22回 臨時会：2回 委員協議会：13回 計 37回

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定例会	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	22
臨時会											1	1	2
委員協議会	2		1	2	1	1	2	1	1	1		1	13
計	4	2	3	4	3	3	4	3	3	2	2	4	37

(H24. 1より委員協議会を委員勉強会に名称変更)

#### (2) 平成23年度の議案等の付議状況

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
議案	8	9	4	12		2	4	4	1	2	6	20	72
協議即付議事項	1	2	3		1	1	2	3			4	1	18
協議事項												1	1
報告事項	3	3		4	2	3	4	1	1	4	2	4	31
計	12	14	7	16	3	6	10	8	2	6	12	26	122

### 3 その他の活動（主なもの）

#### （1）会議等への参加

##### ○県・市町村教育行政連絡協議会

日 時 平成23年4月6日(水)

場 所 総合教育センター

参加者 教育委員 5名（うち1名 教育長）

内 容 ・平成23年度教育重点施策説明等

##### ○県立学校長会

日 時 平成23年4月13日(水)

場 所 総合教育センター

参加者 教育委員 2名（うち1名 教育長）

内 容 ・平成23年度主要施策等

##### ○公安委員会と教育委員会との意見交換会

日 時 平成23年5月27日(金)

場 所 警察本部

参加者 教育委員 6名（うち1名 教育長）

内 容 ・子どもの安全確保等

##### ○全国都道府県教育委員会連合会第1回理事会・教育委員長協議会第1回理事会

日 時 平成23年6月24日(金)

場 所 ホテルアジュール竹芝（東京都）

参加者 教育委員 1名

内 容 ・協議

「平成22年度一般会計、特別会計歳入歳出決算」

「平成24年度国の施策並びに予算に関する要望」等

・文部科学省行政説明・意見交換

「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議  
中間取りまとめ（案）について」

##### ○第27回国民文化祭徳島県実行委員会第1回総会

日 時 平成23年7月3日(日)

場 所 アスティとくしま

参加者 教育委員 2名（うち1名 教育長）

内 容 ・議題 第27回国民文化祭・とくしま2012開催要項について  
平成23年度事業計画及び収支予算について 等

○全国都道府県教育委員会連合会平成23年度第1回総会等

日 時 平成23年7月13日(水)～14日(木)

場 所 秋田ビューホテル(秋田県)

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・協議

「平成22年度一般会計、特別会計歳入歳出決算」

「平成24年度国の施策並びに予算に関する要望」等

・意見交換

「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備に関する検討について」

○四国4県教育委員意見交換会及び教育長会並びに教育委員総会教育長会合同総会

日 時 平成23年11月4日(金)

場 所 マリンパレスさぬき(香川県高松市)

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・協議

「四国4県による平成24年度国の施策並びに予算に関する要望」等

・意見交換

「防災教育を含む命を大切にす教育の充実について」

「社会全体で子どもを育む体制づくりについて」等

○阿南工業高等学校創立50周年記念式典

日 時 平成23年11月5日(土)

場 所 阿南工業高等学校

参加者 教育委員 1名

内 容 ・式典

○全国都道府県教育委員長協議会第2回理事会

日 時 平成23年11月8日(火)

場 所 ホテルアジュール竹芝(東京都)

参加者 教育委員 1名

内 容 ・協議

「平成23年度第2回総会等の運営について」等

・文部科学省行政説明・意見交換

「初等中等教育に関する政策研究上の主要課題について」

○都道府県・指定都市新任教育委員研究協議会

日 時 平成23年11月9日(水)

場 所 フロラシオン青山(東京都)

参加者 教育委員 1名

内 容 ・文部科学省行政説明

「初等中等教育をめぐる最近の動向」

・意見交換

「教育委員に期待される役割について」等

○県・市町村教育委員会教育委員等研修会

日 時 平成23年11月10日(木)

場 所 総合教育センター

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・事例発表

「上板町教育委員会の取組について」

「東みよし町教育委員会の取組について」

・文部科学省 講演「学習指導要領の着実な実施について」

○盲学校、聾学校移転改築工事起工式

日 時 平成23年11月16日(水)

場 所 盲学校

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・式典

○全国都道府県教育委員会連合会第2回理事会

日 時 平成23年12月20日(火)

場 所 フロラシオン青山(東京都)

参加者 教育委員 1名

内 容 ・協議

「平成24年度全国都道府県教育委員会連合会事業計画について」

「平成24年度全国都道府県教育委員会連合会一般会計歳入歳出予算について」

等

・文部科学省行政説明・意見交換

「平成24年度文部科学省予算にかかる予算折衝の状況について」

「中教審の審議状況(教員の資質能力向上方策・高等学校教育の振興・教育振興基本計画(初等中等教育関係))」 等

○全国都道府県教育委員会連合会平成23年度第2回総会等

日 時 平成24年1月23日(月)

場 所 フロラシオン青山(東京都)

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・協議

「平成24年度全国都道府県教育委員会連合会事業計画について」

「平成24年度全国都道府県教育委員会連合会一般会計歳入歳出予算について」等

○鳴門第一高等学校閉校式

日 時 平成24年3月1日(木)

場 所 鳴門第一高等学校

参加者 教育委員 1名

内 容 ・式典

○鴨島商業高等学校閉校式

日 時 平成24年3月1日(木)  
場 所 鴨島商業高等学校  
参加者 教育委員 1名  
内 容 ・式典

○阿波農業高等学校閉校式

日 時 平成24年3月1日(木)  
場 所 阿波農業高等学校  
参加者 教育委員 1名  
内 容 ・式典

○勝浦高等学校閉校式

日 時 平成24年3月2日(金)  
場 所 勝浦高等学校  
参加者 教育委員 1名  
内 容 ・式典

○第27回国民文化祭徳島県実行委員会第2回総会

日 時 平成24年3月28日(水)  
場 所 徳島グランヴィリオホテル  
参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)  
内 容 ・議題 平成23年度事業報告及び収支決算見込みについて  
平成24年度事業計画及び収支予算について 等

(2) 学校視察等の実施

○第1回県内学事視察

日 時 平成23年7月7日(木)  
場 所 牟岐町河内小学校、牟岐少年自然の家、美波町日和佐小学校  
参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)  
内 容 ・授業参観  
・施設見学

○第2回県内学事視察・さわやかトークング

日 時 平成23年10月5日(水)  
場 所 勝浦町生比奈小学校、上勝町上勝中学校  
参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)  
内 容 ・授業参観  
・施設見学  
・意見交換(上勝中学校)  
「へき地校における効率的な学習指導のあり方」  
—ふるさとのよさを学ぶ学習を通して—

○県外学事視察

日 時 平成23年10月26日(水)～27日(木)

場 所 岡山県：鬼ノ城、県立高松農業高等学校、県立玉野光南高等学校

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・授業参観

・施設見学

・意見交換

「文化財の視察」(鬼ノ城)

「農業教育、企業・大学等との連携による取組み等」(県立高松農業高等学校)

「体育科の特色について等」(県立玉野光南高等学校)

○第3回県内学事視察・第1回教育ふれあい懇談会

日 時 平成23年12月21日(水)

場 所 美馬市穴吹中学校

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・地域支援活動見学(俳句教室)

・意見交換

美馬市穴吹町において子どもの教育活動に取り組まれている方 7名

テーマ「地域とともにあゆむ教育の実現を目指して」

○第2回教育ふれあい懇談会

日 時 平成24年2月8日(水)

場 所 県庁

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・意見交換

スクールカウンセラー、ライフサポーター 6名

テーマ「児童生徒のいじめや不登校等の解消に向けて」

(3) その他

○教員採用候補者選考審査 第二次審査

日 時 平成23年8月22日(月)、24(水)、26日(木)、26日(金)、27日(土)、28日(日)、  
29日(月)

場 所 鳴門教育大学附属小学校、総合教育センター

参加者 教育委員 6名(うち1名 教育長)

内 容 ・模擬授業及び個人面接の審査

○藍青賞表彰式

日 時 平成23年10月29日(土)

場 所 総合教育センター

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・受賞者の表彰

○教育委員会関係職員表彰

日 時 平成23年12月28日(水)

場 所 県 庁

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・受賞者の表彰

○藍青賞表彰式

日 時 平成24年2月25日(土)

場 所 総合教育センター

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・受賞者の表彰

○教育委員会関係職員表彰

日 時 平成24年3月30日(金)

場 所 県 庁

参加者 教育委員 2名(うち1名 教育長)

内 容 ・受賞者の表彰





第3章 平成24年度（平成23年度対象）  
点検・評価項目実績値等一覧表



点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年度)	進捗状況 (23年度 未現在)	達成率 (23年度 未現在)	目標値	年度	備考
										年度	
基本方針1 社会全体で取り組む教育の実現											
1	「家庭教育支援者養成講座」受講者数(累計)	人	1,260	1,312	1,431	1,516	1,672	101.4%	1,660(累計)	24	
2	子どもの読書活動推進に関するイベント参加者数(累計)	人	2,166	3,376	6,217	7,402	9,080	113.6%	8,000(累計)	24	
3	地域教育力再生コーディネータ養成講座受講者数(累計)	人	123	164	246	304	372	95.4%	390(累計)	24	
4	「学校支援地域本部」の実施市町村数	市町村	—	6	9	10	6	20.8%	全市町村	24	合わせて13市町村達成率54.2%
5	学校サポーターズクラブ設置市町村数	市町村	—	—	—	—	10	100.0%	10	24	
6	「放課後子ども教室」実施数	教室	30	65 (累計55)	65 (累計59)	60 (累計60)	48 (累計62)	60.0%	80	24	児童クラブとあわせて全市町村実施済
7	「学校関係者評価」実施率	%	32	68.4	67.9	78.1	94.2	94.2%	100	24	
8	「コミュニティ・スクール」モデル校数(累計)	校	2	6	9	11	11	84.6%	13(累計)	24	
9	預かり保育実施率(公私立)	%	67	67	81.2	84.6	88.1	107.4%	82	24	
10	「キャリア教育の手引き(仮称)」の作成・推進	—	—	—	—	—	作成	達成	作成	23	
11	高校におけるインターンシップの実施率	%	—	—	—	65.9	目標値]77.3	118.9%	65	24	平成24年9月頃確定
12	中学校における職場体験の実施率	%	77	82	83.1	95.4	目標値]88.5	101.6%	95	24	平成24年9月頃確定
13	公立高等学校の授業料不徴収等	—	—	—	—	推進	推進	継続実施	推進		
基本方針2 未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現											
14	「学力・学習状況」改善プランにおける数値目標の達成状況	%	—	69.6	70.3	85.8%	87.6%	98.6%	十分できた・取ねできた学校の割合87%	24	
15	「学力向上に関する自己評価」の達成状況	%	—	42.3	42.9	100.0	—	100%	十分できた・取ねできた学校の割合100%	22	目標達成
16	「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率	—	—	8項目中4項目上回った	8項目中4項目上回った	8項目中6項目上回った	全国調査の実施見送り	—	全国平均正答率を上回る	24	
17	授業以外で1日30分以上勉強する児童生徒の割合	%	小5 81.8 中2 83.2	小5 82.2 中2 81.6	小5 83.4 中2 84.2	小5 85.3 中2 88.6	小5 84.9 中2 86.6	小5 97.8% 中2 98.2%	小5 86.8% 中2 88.2%	24	
18	家や図書館で1日10分以上本を読む児童生徒の割合	%	小5 70.2 中2 60.6	小5 70.1 中2 68.1	小5 66.0 中2 65.6	小5 66.9 中2 65.8	小5 70.1 中2 68.1	小5 93.2% 中2 88.6%	小5 75.2% 中2 65.6%	24	
19	「阿波っ子すだち(県立ち)宣言プロジェクト」の実施	—	—	—	—	推進	推進	継続実施	推進		
20	高校生の進路実現に向けた各学校・学科に応じた取組みの推進	—	—	—	—	推進	推進	継続実施	推進		
21	小中一貫教育についての研究と成果の普及(モデル地域(累計))	地域	3	4	7	11	15	126.0%	12(累計)	24	
22	少人数学級(35人を上限とする学級編制)の推進	—	小学1・2年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2年及び中学1年	小学1・2・3年及び中学1年	継続実施	小学3年に新規導入	23	
23	一定規模以上の学級を有する金での小・中学校に少人数指導のための追加教員を配置	—	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	25人以上の学級で継続実施	継続実施	継続実施	19~24	
24	退職教員等外部人材を活用した教育の展開	—	—	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
25	伝統文化を尊重する教育実践研究指定校(累計)	校	7	12	12	18	16	72.7%	22(累計)	24	
26	保護者の有害環境対策フィルタリングの認知率	%	—	86	89.3	92.5	88.8	98.8%	100	23	
27	スクールカウンセラーの金公立小・中学校への配置	—	—	推進	推進	推進	配置	達成	推進		
28	スクールソーシャルワーカー数	人	4	5	6	7	8	100.0%	8	24	

点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年度)	進捗状況 (23年度 末現在)	達成率 (23年度 末現在)	目標値		備考
									年度	年度	
29	「阿波っ子スクールサポート チーム(ASST)」活動の充 実強化	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
30	「体力アップ100日作戦」 達成率	%	84	89	94.7	93.8	84.1	98.1%	95	24	
31	体力向上支援プランの策定・推 進	-	-	-	策定	推進	推進	継続実施	策定	21	
32	「運動が好きな児童生徒」の割 合	%	-	-	-	小6 65.3 中2 62.3	小6 67.3 中2 65.3	小6 80.4% 中2 95.3%	小6 70.0% 中2 68.0%	24	
33	スクールヘルスリーダー派遣回 数(累計)	回	-	23	126			140%	90(累計)	24	目標達成 事業終了
34	専門医派遣回数(累計)	回	-	-	67	97	120	105%	120	24	
35	肥満傾向児の出現率の低減を推 進	-	-	-	-	-	推進	継続実施	推進		
36	食育全体計画の策定	-	-	全小・ 中・高、 特別支援 学校で策 定	全小・ 中・高、 特別支援 学校で策 定	全小・ 中・高、 特別支援 学校で策 定	全小・中・高、 特別支援 学校で策 定	継続実施	全小・中・ 高、特別支援 学校で策定	20	
37	栄養教諭・学校栄養職員による 食に関する指導実施校数	校	-	-	-	123	174	78.1%	220	24	
38	学校給食における地産物活用率	%	60	63	63	68	68	97.0%	60	24	
39	特別支援学校と交流・共同学習 等を実施している学校・団体数	校・ 団体	88	94	78	118	120	92.3%	130	24	
40	「個別の指導計画」を作成して いる学校の割合	%	47	66	95	97.5	100.0	100.0%	100	22	
41	「個別の教育支援計画」を作成 している学校の割合	%	-	-	85	87.0	96.0	103.2%	93	24	
42	特別支援教育支援員の配置及び 学校における支援体制の充実	-	-	-	-	円滑	配置	継続実施	推進		
43	進路開拓のための特別支援学校 の教員や就労支援アドバイザー による事業所等への訪問回数	回	833	918	830	913	1,057	109.2%	1,000	23	
44	とくしま型トータルサポートの 推進	-	-	-	-	-	推進	継続実施	推進		
45	巡回相談員等の支援回数	回	-	-	-	2,166	1,866	81.1%	2,300	24	
46	通級指導教室の設置数	教室	23(小学 校・特別 支援学 校)	26 (中学校 2)	28 (中学校 3)	33 (中学校 3)	35 (中学校4)	継続実施	中学校にも 拡大	24	
47	盲学校・聾学校の改築	-	推進	基本計画	基本設計	実施設計 完了	工事 (着手)	継続実施	工事 (着手)	23	
48	みなと高等学園の整備	-	推進	設計	設計完了	工事	工事	-	開校	24	平成24年4月 開校
49	特別支援学校の全体的な適正配 置	-	-	推進	推進	推進	推進	達成	推進		
50	国府養護学校池田分校の本校化 (池田支援学校)	-	-	-	-	開校			開校	22	平成22年4月 開校
51	池田支援学校美馬分校の開校	-	-	-	-	開校			開校	22	平成22年4月 開校
52	特別支援学校勤務教諭の「当該 学校が対象とする障害種に対応 した免許状」の保有率	%	76	76	73	74	72	90.0%	90	24	
53	「新学校版環境ISO(仮 称)」認証取得校数	校	96	140	102	212	231	106.0%	220	24	
54	学校を拠点とした環境教育の推 進	-	-	-	-	-	推進	継続実施	推進		
55	国際理解教育の推進	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
56	小学校外国語活動を支援する人 材を小学校へ配置	-	-	-	推進	推進	推進	継続実施	推進	21,22	
57	IoTを活用して指導できる教員 の割合	%	68.1	69.0	70.6	73.9	78.6	78.5%	100	24	平成24年8月頃 確定

点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年 度)	進捗状況 (23年度 未 調査)	達成率 (23年度 未調査)	目標値		備考
									年度	年度	
基本方針3 信頼される教育環境の実現											
68	併設型「中高一貫教育校」の全県展開	校	2	2	2	3	3	100.0%	3	22	
69	徳島科学技術高校の設置	-	-	準備	開校				開校	21	平成21年4月開校
60	オンリーワンハイスクールの育成	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
61	高校再編の計画策定	地域	2	6	6	6	6	71.4%	7	21	
62	再編計画に基づく新しい学校の設置 ・吉野川高校の開校	-	-	準備	準備	準備	準備	-	開校	24	平成24年4月開校
	・鳴門渦潮高校の開校	-	-	-	準備	準備	準備	-	開校	24	平成24年4月開校
	・貞光工業高校・美馬商業高校	-	-	-	準備	準備	準備	-	開校	26	
63	農業教育、商業教育の活性化プランの策定と推進	-	-	-	-	策定	推進	継続実施	策定・推進		
64	産・学・官の連携の推進	-	-	-	-	-	推進	継続実施	推進		
65	私立学校の健全な発達の支援・低所得世帯への修学支援	-	-	支援	支援	支援	支援	継続実施	支援		
66	私立学校の特色づくり、魅力アップ、子育て支援と地域貢献促進、情報発信力強化の支援	-	-	支援	支援	支援	支援	継続実施	支援		
67	公私立学校間の意思疎通の活性化、連携・機能分担の強化	-	-	促進	促進	促進	促進	継続実施	促進		
68	初任者研修、授業力向上研修、教職5年次研修、10年経歴者研修、リサーチアップ養成研修の実施	-	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	推進	
69	精神科医等による相談事業やメンタルヘルスマネジメントセミナー等の実施	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
70	特定健康診査・特定保健指導への積極的な対応による教職員の健康の保持増進	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
71	県立高等学校施設耐震化率	%	46	69	62	73	74	82.6%	80	24	
72	小・中学校施設耐震化率	%	48	66	64	77	66	101.2%	86	24	
73	スクールガードリーダー委嘱人数	人	24	24	33	24	28	69.1%	44	24	
74	防災教育推進モデル校数	校	18	21	24			100.0%	24	21	目標達成事業終了
75	「あわ防災推進事業」の実施	-	-	-	-	推進	推進	継続実施	推進		
76	学校における防災教育の充実	-	-	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	継続実施	全小・中・高・特別支援学校で推進	24	
77	県立学校における「防災クラブ」の設置	校	-	-	-	-	6	60.0%	10	24	
78	副校長等の新たな職の設置	-	-	設置	推進	推進	推進	継続実施	推進		

点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年 度)	進捗状況 (23年度 未 現在)	達成率 (23年度 未現在)	目標値		備考
									年度	年度	
基本方針4 人権尊重社会をめざす教育の実現											
79	「“あわ”人権学習ハンドブック」の活用促進と指導内容・方法の改善・充実	—	—	推進	推進	推進	推進	総括実施	推進		
80	人権教育研究校の指定	校	—	8	8	8	8	100.0%	県指定 毎年度4校 文部科学省指 定 毎年度4 校		
81	ふれあい人権発表会への応募 作品数(累計)	作品	—	21	43	63	63	63.0%	100 (累計)	24	平成22年度 事業終了
82	「心にひびく とっておきのエ ピソード」への応募作品数	作品	—	—	1,544	4,108	7,916	121.9%	6,000(累計)	23	
83	中・高校生による人権交流集会 への参加者数(累計)	人	542	1,047	1,527	2,050	2,466	82.2%	3,000(累計)	24	
84	生涯にわたる人権教育の学習機 会の充実	—	—	推進	推進	推進	推進	総括実施	推進		
85	「あったかハートつながり隊・ ひろがり隊」の派遣回数(累 計)	回	—	—	—	17	43	119.4%	36	24	
86	人権教育指導員の派遣回数(累 計)	回	327	722	1,039	1,349	1,636	80.9%	1,600 (累計)	24	
87	社会教育における人権教育推進 者の養成数(累計)	人	51	108	171	228	280	87.6%	320 (累計)	24	

点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年 度)	進捗状況 (23年度 未 現在)	達成率 (23年度 未現在)	目標値		備考
										年度	
基本方針5 みんなが学べる生涯学習社会の実現											
88	生涯学習情報システムへのアクセス件数	件	519,809	394,834	582,697			72.8%	約80万件	24	平成21年度システム変更
89	生涯学習情報システム指導者・団体新規登録数(累計)	件	-	-	-	-	54	90.0%	60	24	
90	「とくしま学博士」の認定や人材登録制度の創設、地域における生涯学習のリーダーの育成、地域に貢献できる人材の有効活用	-	-	創設 推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
91	文化の森各文化施設入館者総数(累計)	万人	1,390	1,463	1,646	1,626	1,702	94.6%	1,800(累計)	24	
92	とくしまネットワーク図書館の構築	-	-	推進	推進	構築	運用	達成	構築	22	平成23年度運用開始
93	市町村立図書館等への貸出冊数	冊	-	-	-	-	67,161	95.8%	70,000	24	
94	図書館企画事業数(累計)	回	-	-	-	190	263	90.4%	280	24	
95	学校の授業への講師派遣回数(累計)	回	-	-	-	90	121	100.6%	120	24	
96	鳥居龍藏記念博物館の開館	-	-	整備	整備	開館			開館	22	平成22年11月開館
97	ミュージアムネットワーク連携機関数	機関	-	-	-	2	3	60.0%	5	24	

点検・評価項目（「教育振興計画」重点事業） 平成23年度 実績値等一覧表

番号	事業名	単位	実績値 (19年度)	実績値 (20年度)	実績値 (21年度)	実績値 (22年度)	進捗状況 (23年度 未現在)	達成率 (23年度 未現在)	目標値		備考
									見直し	年度	
基本方針6 豊かなスポーツライフと人・地域が輝く「あわ文化」の実現											
98	「徳島県スポーツ振興基本計画」の見直し	-	-	-	-	見直し	見直し	継続実施	見直し	22	
99	「とくしまスポーツ憲章」を制定し、スポーツに親しむ気運を醸成し、「とくしまスポーツ王国づくり」の実現を目指す	-	-	推進	推進	推進	推進	継続実施	推進		
100	総合型地域スポーツクラブの設立数	クラブ	21	26	28	29	31	110.7%	28	22	
101	健康づくり実践プログラムの作成・推進	-	-	-	作成	推進	推進	継続実施	作成	21	
102	「とくしまスポーツSHOWデー」実行委員会によるイベント等助成数（累計）	件	10	29	49	70	91	113.6%	80(累計)	23	
103	鳴門渦潮高校をスポーツの拠点校として推進	-	-	-	-	-	整備	-	開校・推進	24	
104	国民体育大会天皇杯順位	位	47	43	40	44	47	-	30位台	23	
105	中高連携による競技力向上連携ゾーン数	ゾーン	1	5	13	16		100%	16	22	目標達成 事業終了
106	全国高等学校総合体育大会の入賞(団体・個人)数	-	-	-	-	10	7	68.3%	12	24	
107	鳴門渦潮高校の設置	-	-	-	-	整備	整備	-	開校・整備	24	
108	徳島県スポーツ賞の推進	-	-	創設	推進	推進	推進	継続実施	創設・推進	20	
109	文化財マイスター修了生数(累計)	人	18	32	72			120.0%	60(累計)	21	目標達成 事業終了
110	「発見！ふるさとの伝統文化」受講者数(累計)	人	-	-	134	330		165.0%	200(累計)	22	目標達成 事業終了
111	地域の子どもたちを対象とする伝統芸能への取組の支援	-	-	-	-	推進	推進	継続実施	推進		
112	国指定文化財(史跡含む)の指定選定数	地区	9	10	11	12	12	92.3%	13	24	
113	勝瑞城館跡整備面積	m <sup>2</sup>	0	0	263.20	5,160	10,000	50.0%	20,000	24	
114	文化財ボランティア養成人数(累計)	人	63	86	107	125	144	87.3%	165(累計)	24	
115	アワコウコ楽マイスター参加者数(累計)	人	82	112	121	221		138.1%	160(累計)	22	目標達成 事業終了
116	いにしえ夢街道活用ゾーン数(累計)	ゾーン	-	-	-	4	4	66.7%	6	24	
117	学校への芸術家等派遣回数(累計)	回	132	204	282	357	447	111.8%	400(累計)	24	
118	近畿高等学校総合文化祭の開催・参加	-	準備	開催・参加者 6,032人	参加者 387人	参加者 204人	参加者 177人	達成	開催・参加者 6,000人	20	

注1) 番号の○印は、教育委員会以外の部局の事業、又は教育委員会との関連事業を表す。  
 注2) グレーの欄掛けは、平成23年度新規事業を表す。



## 第4章 平成24年度（平成23年度対象） 点検・評価概要（基本方針ごと）



## 基本方針1 社会全体で取り組む教育の実現

<b>方針</b>	<b>1 学校・家庭・地域の連携の推進</b>
<p>・ 県民の教育に対する理解を深め、学校・家庭・地域が連携して学校教育及び社会教育の活性化を図るとともに、家庭や地域がそれぞれに求められる役割を十分に果たせるよう、教育力の向上をめざした取組を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「お父さんのための読み聞かせプロジェクト」を2日間開催し、男性を中心とする受講生を対象とした読み聞かせ研修会等を実施した。また、「とくしまの子どものためのブックリスト100プラス!」・「とくしまの赤ちゃんのためのブックリスト100ジャスト!」の活用推進を図る目的でフォーラムを開催し、「赤ちゃんブックリスト」掲載作品の絵本作家による記念講演等を行った。</li> <li>○ 「小学校区又は中学校区」の地域の自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の既存団体による連携、連合体を学校支援組織「学校サポーターズクラブ」として認証した。「学校・家庭・地域連携フォーラム」において、学校サポーターズクラブの趣旨説明等を行った。平成23年度は、13市町村35クラブを認証した。</li> <li>○ 「放課後子ども教室」を、県内5市9町と県立聾学校において、48か所で実施した。新規開設教室として、2教室が加わり、累計数は62教室に達した。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校サポーターズクラブ」を13市町村において、35クラブを認証したが、学校支援地域本部事業の取組を行っていなかった市町村においてもクラブの申請があり、学校支援活動の広がりをみせた。</li> <li>○ 「家庭教育支援者養成講座」修了者には、子育てサロンでの活動や、生涯学習課主催講座で家庭教育に関する講座を主宰する者がいるが、受講者のこれからの活動に対するガイダンス機能を引き続き、高めていかなければならない。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ほのほの家庭教育づくりプログラム事業」において、祖父母等を対象に、昔の子育ての知恵の活用等について学ぶ家庭教育講座を開講し、より身近な支援者を養成する。また、受講修了者の生涯学習情報ネットワーク指導者登録の促進等を行い、受講者のこれからの活動の支援を推進する。</li> <li>○ 「学校サポーターズクラブ」制度のさらなる広報・啓発活動を推進し、「地域ぐるみの学校支援事業」による学校支援地域本部の展開と併せ、地域ぐるみの学校支援体制づくりを推進する。</li> </ul>	
<b>方針</b>	<b>2 地域の教育力の活用</b>
<p>地域の人材や教育力を活用して、地域で子どもをはぐくむ活動を推進するとともに、学校評価システムやコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の普及を図り、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成23年度は、小学校2校がコミュニティ・スクール推進事業の調査研究校として実践研究を行い、各町教育委員会と連携して研究を推進した。文科省主催の「地域とともにある学校づくり制度等説明会」においてコミュニティ・スクール指定校の実践報告等を行い、実践校の事例について周知を図った。</li> <li>○ 学校評価の実施状況や実施上の成果と課題を明らかにし、結果を市町村教育委員会及び各学校に通知し、学校評価の充実・改善の取組を促した。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査研究校では、保護者・地域住民が学校行事や教育活動に参加し、学校について理解を深めてもらうとともに、学校に対しての意見を収集する機会となるなど、地域の意見を学校運営に活かした開かれた学校づくりに向けた取組ができるようになった。今後、本事業の仕組みを広め、さらに各学校の課題解決の方策として推進していくことが必要である。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コミュニティ・スクール研究校の成果と課題を踏まえ、それぞれの学校の実態に基づいて、各校の地域連携における課題解決に対して実効性ある制度活用ができるように研究を進める。</li> <li>○ 学校評価の実施状況を把握し、教育委員会としての支援の在り方について研究を進めていく。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>3 幼児期における教育の充実</b>
<p>発達や学びの連続性を確保するために、幼稚園と保育所・認定こども園・小学校との連携を推進するとともに、生活の連続性を確保するために、家庭・地域との連携を推進するなど、幼児教育の充実を図ります。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ 「徳島県幼児教育振興アクションプラン推進事業」の重点施策の一つとして、預かり保育の充実に取り組んでおり、預かり保育に係る調査研究の成果を、各種研修会を通じて県内の幼稚園に普及を行った。「預かり保育実態調査」を実施し、各市町における実施状況の把握を行い、預かり保育の質的向上を図るため、各市町に対し、指導体制や条件整備についての指導・助言を行った。”</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ 本県における預かり保育の実施率（公私立）については、全国平均を上回っているとともに、預かり保育を実施する園も年々、増加していることから、ニーズに応じた保育の推進がなされている。</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 引き続き、「預かり保育実態調査」を実施し、各市町における実施状況の把握を行うとともに、地域や保護者のニーズに応じた預かり保育がより一層推進されるよう、学校政策課施策説明会等の機会を捉え、各市町に対し、指導体制や条件整備についての指導・助言を行っていく。</p>	

<b>方針</b>	<b>4 産業界や大学等との連携の推進</b>
<p>地域の事業所や企業など産業界と連携して、子どもたちの勤労観や社会性を養います。 また、大学等との連携により教職員の資質向上のための研修やICTを活用した遠隔指導などの取組の充実を図ります。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ インターンシップの充実に向けては、各校独自に取り組んでいる。「産業人材確保インターンシップ事業」や県立施設を活用したインターンシップにも取り組んでいる。さらに普通科高校での実施率が低いことから、「高等学校普通科等キャリア教育推進事業」を実施している。</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ 「キャリア教育の手引き」（文部科学省）や「キャリア教育のすすめ」（県教委委員会）により、キャリア教育の重要性について理解は深まっているが、今後、全体計画の策定や校内体制の構築などの具体的取り組みが求められている。実施率については、県単事業の活用や各高校への呼びかけなどにより、上昇している。今後もキャリア教育の必要性を伝えキャリア教育の充実を図ってきたい。</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 県単事業の更なる活用やキャリア教育普及に向けて作成した「キャリア教育の推進に向けて」の活用により、教職員のキャリア教育への理解を深め、体験的活動のさらなる推進に努める。また、各市町村教育委員会を通じて各小中学校にキャリア教育のさらなる推進を求めていく。</p>	

## 基本方針2 未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現

方針	<b>1「確かな学力」の育成</b>
基礎・基本の確実な定着はもとより、思考力・判断力・表現力等の育成を図るとともに、少人数学級や少人数グループ指導、ティームティーチングなどきめ細かな指導を進めるなど、「確かな学力」を育成します。	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校では、評価シートを活用し、年2回、校長が自校の取組を評価した。その評価結果を県教育委員会で集計し、各学校に評価結果を提供した。各学校において評価シートを活用した学力向上等への取組が展開された。</li> <li>○ 「徳島県学校改善支援プラン」に基づき、各学校において「学力・学習状況」改善プランを作成し、PDCAのマネジメントサイクルを実施することにより、平成22年度の成果と課題及び検討した改善策を平成23年度の「学力・学習状況」改善プランに反映させた。</li> <li>○ 「家庭学習の手引」の優れた例を県立総合教育センターホームページに掲載したり、研修会において作成のポイントを指導したりするなど、各学校における「家庭学習の手引」の作成を支援し、児童生徒の家庭学習習慣の充実に取り組んだ。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数学級編制を実施し、生活習慣・学習習慣の定着やきめ細やかな指導を充実させることができ、いわゆる「小1プロブレム」や「中1ギャップ」への対応を図ることができた。</li> <li>○ 多くの学校において、お薦めブックリストの作成や朝の一斉読書など学校をあげての取組が行われ、読書活動の推進が図られている。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後とも、各小中学校において、学校改善支援プランに基づいた検証改善サイクルによる学力向上への取組が継続して実施されるよう推進する。</li> <li>○ 各学校が作成した「家庭学習の手引」の活用及び更なる改善を支援するなど、児童生徒の家庭学習習慣の確立を図り、定着化を一層推進する。</li> </ul>	
方針	<b>2「豊かな心」の育成</b>
道徳教育の充実を図るとともに、自然体験や社会奉仕活動など様々な体験活動や郷土を学ぶ機会を通じて、命を大切にす心や他人を思いやる心、郷土の伝統や文化を大切にす心などの「豊かな心」を育成します。	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒のいじめや不登校等の問題行動に対応するため、スクールカウンセラーを全公立小・中学校と高校の一部に配置し、相談体制の充実を図った。また、スクールカウンセラーを県立総合教育センターへ配置し、すべての県立学校へも要請に応じて派遣できるようにしている。</li> <li>○ 平成23年度は、臨床心理士等48名をスクールカウンセラーとして66校の拠点校に配置した。また、スクールソーシャルワーカーを8名委嘱し、保護者や学校からの相談に対応した。</li> <li>○ 携帯電話の専門家を学校に派遣し、携帯電話のルールやマナー等の情報モラルについて指導を行うため、携帯電話安全教室を行った。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全公立小中学校にスクールカウンセラーが配置されたことで、相談体制が整備され、小・中学校を通して継続的なカウンセリングが実施することが可能となり、生徒指導上の諸問題の解決に大きな役割を果たしている。</li> <li>○ 保護者のフィルタリングサービスの認知度は、96.8%と高い水準になっている。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝統文化を尊重する教育実践研究指定校の取組の成果を県内各校に広報し、普及発展に努める。</li> <li>○ スクールカウンセラーの活用を促進するため、緊急の支援体制の整備や一人当たりの相談時間の工夫を行い、相談体制の一層の充実に努めます。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>3「健やかな体」の育成</b>
<p>子どもが生き生きとした生活を送り、心身共に健やかに成長していくため、学校体育、保健の充実を図るとともに、学校における食育を推進し、子どもたちの「健やかな体」を育成します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「子どもの体力向上アクションプラン」を策定し、平成23年度はこれに基づき各校で「体力向上計画」を作成し、体力向上に向けた取組を実施した。県としては「体力向上スマイル事業」を実施し、各校での取組を支援している。</li> <li>○ 「体育授業はつらつサポート」を実施し、体育授業に専門員を派遣して運動の楽しさとできるよるこびを味わわせ取組を実施した。</li> <li>○ 栄養教諭が、教職員と連携・協力し、専門性を生かした食に関する指導を行うよう、研修会等で周知してきた。教科等による指導や給食時間の指導等での指導、また、個別相談指導が行われるようになってきた。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度の県平均を多くの種目で上回るなど体力向上の兆しが現れた。（中2女子の体力合計点は平成22年度の全国平均を上回った。）</li> <li>○ 受配校の多い給食センター勤務の栄養教諭は、日常の業務と各校の指導時期等が重なり、時間の確保が難しい。栄養教諭が積極的に訪問機会をふやすために、計画的・系統的な指導体制を整える必要がある。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「あわっ子生活習慣改善プラン推進事業」を活用して、専門員の派遣を行い、教職員への指導助言、講話や講演、児童生徒や保護者への健康相談等を行い、学校における子どもの健康課題解決に取り組んで行く。</li> <li>○ 各種取組の充実を図り、運動の楽しさやできる喜びを味わわせる。また、県民への啓発を行い、日常生活で運動の楽しさを味わえるような環境を提供する。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>4 特別支援教育の充実</b>
<p>特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握して適切な指導及び必要な支援を行う、特別支援教育の充実に向けた取組を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学校の幼児・児童生徒が、自分の住んでいる地域にある幼稚園、小中学校等の授業や学校行事に参加する「居住地校交流」、特別支援学校と近隣の幼稚園、小中学校等の間で交流をする「学校間交流」、特別支援学校が近隣の施設等と交流をする「地域交流」により、積極的に交流及び共同学習を行い、特別な支援を必要とする幼児・児童生徒及び特別支援教育についての理解・啓発を推進した。</li> <li>○ 地域の幼稚園、小・中学校、高等学校等からの依頼を受け、出張相談、来所相談、電話・メール相談等により、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒への相談支援を行った。また、各学校や市町村教育委員会等の要請を受け、発達障害等の幼児・児童生徒理解や体制作りのための研修会の講師を務めた。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流及び共同学習の実施状況については、平成22年度においては119団体と大幅に増加し、平成23年度も継続できている。交流形態も、行事や授業を通してふれあう交流から、作品や発表を通しての交流、メールや手紙等による交流まで多様化してきている。</li> <li>○ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の中で、個別の指導計画の作成が必要な児童生徒が在籍している学校での作成率が100%になった。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理解・啓発につながる充実した交流活動を実施するために、学校の特色や幼児・児童生徒の実態に応じて内容や方法について工夫・配慮していくことが必要である。さらに、交流校・団体との連携体制、安全面の確保、緊急時の対応等の課題解決に向けて取り組んでいく。</li> <li>○ 巡回相談員が定着し、学校や市町村から安定して依頼がある。地域のセンター的な役割として定着しており、今後も安定して依頼があると予測される。地域の学校における特別支援教育の体制整備に伴い、相談内容が多岐にわたり、巡回相談員としての専門性の向上に努めたい。</li> </ul>	

**方針****5 社会の変化に対応する教育の推進**

急速な社会の変化に、子どもたち一人ひとりが主体的に対応できる能力・態度を育成するため、小・中・高等学校における系統的なキャリア教育、環境教育、国際理解教育、情報教育を推進します。

**主な取組状況**

- 学校の環境教育の中に位置付けた本県独自の「学校版環境ISO」認証システムを構築し、県内公立小・中・高・特別支援学校において、PDCAサイクルを取り入れ、さらに成果をわかりやすく目に見える形に整理していくことで児童生徒、教職員が一体となった環境保全活動を推進した。平成23年度は継続校も含め、小学校29校・中学校14校・高等学校4校、合計47校が認証取得・継続を行った。
- 「学校を拠点とした地域国際理解教育推進モデル事業」をスタートさせ、海外からの教育旅行受入による直接交流を推進する7校の指定とICT交流を推進する6校の指定を行い、国際理解教育の推進を図った。
- 初任者研修、教職5年次研修等の基本研修や希望研修、受託研修等で、ICTの授業活用、教育用コンテンツ作成、情報モラル等の研修を実施した。また、教員のICT活用指導力向上のため、指導主事が各学校等を訪問して校内研修支援を行うとともに、学校計画訪問や各種研修機会をとらえて、ICT活用に関する啓発に努め、授業等におけるICT活用を促進した。
- 「県立学校避難所施設強化・充実事業」を予算化し、整備の中で、併せて自然環境を利用した設備等の設置を進めていく。

**評価**

- 平成23年度末で231校が認証取得を行い、24年度末の目標である220校を達成する予定である。「学校版環境ISO」が、浸透しつつあり、児童生徒、教職員が一体となった環境保全活動が推進されたといえる。
- 県内の13の学校に、中国、ベトナム、ドイツなどから教育関係者及び生徒を迎え、児童生徒の国際交流を実現させた。また、ICT交流の基盤づくりに、県立の5校において、英語及び中国語によるホームページを作成して情報発信をした。徳島県と中国湖南省の友好締結を契機に、長沙市第一中学校と県立城ノ内中学校による学校間テレビ会議を実現させた。
- ICT機器の整備が進められ、授業・校務にICTを活用できる環境が整いつつある。また、研修への積極的な参加を促進してきた結果、総合教育センターでのICT活用指導力向上研修、受託研修等により、多くの教員が授業等においてICTを活用する方法を学んだ。今後、すべての教科等の授業でICTを活用するためには、ICT環境を整備するとともに、ICT活用に関する研修をさらに充実させ、教員のICT活用を身近なものにしていく必要がある。”

**今後の主な取組と方向性**

- これまで校内での活動が中心であった「学校版環境ISO」の取組をステップアップさせ、学校と地域（家庭を含む）がより一層連携し、地域や学校の状況に応じた環境学習を行う取組に進化させた「新 学校版環境ISO」に移行する。今後、地域へ取組を広げることで活動全体の活性化を図り、環境保全に対する意識の高い児童・生徒及び郷土を愛するモラルの高い児童・生徒の育成に努める。
- 引き続き、毎月第3土曜日に「教職員のためのサタデーパソコン教室」を実施し、自主研修によるICT活用指導力の向上を支援する。総合教育センターホームページから利用できる教育用コンテンツをさらに充実させ、授業等におけるICTの活用促進を図る。
- 「学校を拠点とした地域国際理解教育推進モデル事業」を継続し、教育旅行等の受入による直接交流やインターネットを活用したICT交流を推進し、児童生徒が異文化理解を深める機会を充実させ、学校におけるグローバル人材の育成に努めていく。

## 基本方針3 信頼される教育環境の実現

<b>方針</b>	<b>1 活力と魅力ある学校づくり</b>
<p>各高等学校が将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくため、全県的な高校再編を進めるとともに、「地域の教育・文化の創造拠点」としてのオンリーワンハイスクールの育成、時代の進展や生徒の興味・関心に応じた学科の配置など、活力と魅力ある学校づくりを進めます。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成23年3月に「徳島県農業教育活性化プラン」及び「徳島県商業教育活性化プラン」を策定し、本県農業・商業教育の活性化に向けた取組として6つの方策を掲げ、それぞれの項目についての具体的な推進策に基づき、各農業科・商業科設置高等学校が数値目標を立てて取り組んでいる。</li> <li>○ 平成26年度に貞光工業高校と美馬商業高校を再編統合して開校する学校では、新高校の制服を決定した。さらに、学校間連携の推進にむけて、「両校生徒の交流学习」、「学校祭等学校行事での連携」、「地域との連携による合同イベント」等を実施した。</li> <li>○ 県立学校を対象に希望校を募集し、書類審査及びプレゼンテーション審査で、実施校8校を選定した。2月には、実施校が1年間の活動成果を発表する生徒活動発表会を開催した。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開校準備を着実に進めることができた。また、学校間連携事業の実施により、両校教育活動の連携、新高校の地元中学校・住民へのPRが促進された。</li> <li>○ 「スペシャリストの育成を目指した学科の再編」に基づき学科再編を行うとともに、「産学官連携による実践的な農業・商業教育の推進」に基づき、産学官連携による産業教育推進事業を実施した。また、各農業科・商業科設置高等学校は、具体的な活性化策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けて取り組んだ。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活性化プランにおける推進策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けた各農業科・商業科設置高等学校の計画的な取組を支援する。</li> <li>○ 産学官連携による産業教育の推進を図るため、より主体的・実践的な事業に取り組む。</li> <li>○ オンリーワンハイスクールにおいて、全県的なレベルアップを図るため、全国に発信できる徳島ならではの取組を行う日本のオンリーワンハイスクールを目指す。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>2 私立学校の振興</b>
<p>多様な教育サービスの選択肢を提供するため、私立学校の健全な運営や特色づくりを支援し、公立学校との適切な連携・機能分担を進めます。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私立学校の「特色づくり」に対する支援として、「輝く私学推進事業」を行い、私立学校の魅力アップや、預かり保育等の子育て支援の充実に取り組む私立学校を支援した。</li> <li>○ 公私立高等学校連絡協議会等を開催し、公私立学校間での情報共有、意見交換を行う等、連携強化に努めた。また、公立高等学校の入試説明会において、私立高校の入試説明を実施した。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「輝く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の个性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。</li> <li>○ 公立・私立の関係者がそれぞれの現況や課題について協議することにより、意思疎通、相互理解が図られた。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、延長保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援するとともに、本県私立学校教育の認知度を高めるため、情報発信力の強化を支援する。</li> </ul>	



<b>方針</b>	<b>3 教職員の資質の向上</b>
<p>優秀な人材を確保するとともに、様々な研修の充実・支援に努めます。また、教員評価のあり方について調査研究を進めるほか、メンタルヘルス対策や健康管理対策等を行い、教職員が安心して教育活動に専念し、その能力を存分に発揮できるよう支援します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に実施し、「新たな教育課題への対応」や「専門的な知識や技能の習得」をめざすことにより、教職員の資質向上を図る。</li> <li>○ 平成23年度の教職員相談事業の相談件数は、155件であった。メンタルヘルス1次予防として実施している「教職員相談事業出前講座」は平成23年度、希望校7校で実施することができた。メンタルヘルス管理者支援講座においては平成23年度145名の管理職が研修に参加し、ラインケアの充実を図っている。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員のライフステージに応じた研修課題を明確にするとともに、それぞれの期間に受講する研修に系統性・連続性をもたせることにより、「受講者が目的意識をもった主体的な研修」とすることができた。受講者にアンケート調査を実施することにより、更なる研修内容の充実を図った。</li> <li>○ メンタルヘルス事業が教職員へ浸透しつつあり、メンタルヘルスクエア知識の向上や理解に取り組む教職員が増加している。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各研修が、教育活動に有効に反映され、児童生徒の学びや育ちに役立つよう、研修内容の充実を図る。また、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、受講日数の絞り込みやサテライト方式での実施等、効率的・効果的な研修を実施する。</li> <li>○ 心の病気の予防として、気軽にカウンセリング等ができる体制の周知等を図り、出前講座やメンタルヘルス管理者支援講座等を実施していく。新たに「教育職員職場復帰支援事業」として、教員の職場復帰後のメンタル不調の再発を防止するために臨床心理士を派遣し、復帰者や管理職員と面談を行い、具体的な対応への援助を行う。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>4 安全・安心な学校づくり</b>
<p>県立学校施設の耐震化を推進するなど、施設・設備の整備を図るとともに、幼稚園や小・中学校の耐震化を促進するため、市町村に対して適切な助言や技術的支援等を行います。</p> <p>幼児・児童生徒の安全を確保するため、地域住民の参加による学校安全ボランティア活動等の取組を推進するとともに、子どもの防災対応能力の向上を図ります。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立学校耐震化計画に基づき、県立学校施設の耐震化を計画的に推進した。</li> <li>○ 学校と地域が連携した防災教育の必要性を啓発するとともに、各校で実施する際の手引き書「地域とつなぐ防災教育」を活用し、県内の小・中・高・特別支援学校で防災教育に取り組んだ。</li> <li>○ 津波被害の想定される沿岸地域の学校から5校を選出し、各学校では「防災クラブ」を設置し、地域や学校の状況に応じた取組を実施している。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「児童一人ひとりの実践的防災能力の向上（自助）」と「災害時に互いに助け合うための防災ボランティア意識の向上（共助）」を目指して地域の特性に応じた防災教育を実践し、児童生徒のみならず、地域全体の防災力の向上に大きな効果があることが確認できた。</li> <li>○ 避難訓練や炊き出しなど、地域を巻き込んだり活動や高齢者宅での家具転倒防止器具の設置など、将来の防災の担い手になれるような取り組みが行われている。こうした活動を通して、高校生意識も上がってきている。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災クラブを、洪水や土砂災害が懸念される県央部や県西部の高校でも実施していく。</li> <li>○ 各学校において、冊子「地域とつなぐ防災教育」を活用した防災教育の推進と充実を図るとともに「学校防災研修会」を開催し教職員の研修に努めるとともに、防災教育の担い手として教員の育成を図る。</li> </ul>	

**方針****5 教育の組織運営体制等の充実**

信頼される教育を実現するために、教育委員会の活動状況を点検・評価し、その結果を公表するとともに、新しい職を設置するなど、学校の組織運営体制の充実を図ります。

**主な取組状況**

- 多様化・複雑化した学校の課題に対応するため、副校長、主幹教諭、指導教諭を配置した。

**評 価**

- 新たな職を設置することにより、各学校の抱える課題に対して、校長を中心に組織的・機動的に対応する体制を整備するとともに、教員の資質・能力の向上を目指したきめ細かな校内研修等を推進することができた。

**今後の主な取組と方向性**

- 新たな職の設置による学校の機能強化等の成果を踏まえ、校長のリーダーシップのもと、学校組織マネジメントのより一層の充実を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう努めていく。

## 基本方針4 人権尊重社会をめざす教育の実現

<b>方針</b>	<b>1 学校教育における人権教育の充実</b>
<p>発達段階に応じた人権教育の指導内容や指導方法等の研究・実践を進めるとともに、幼児・児童生徒が自主的に活動できる機会を設けることにより人権問題の解決に向けた実践力を養い、学校の教育活動全体を通じた人権教育を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育においては、あらゆる機会を捉えて、「“あわ”人権学習ハンドブック」の活用促進を図っている。平成23年度は、各学校（園）の人権教育年間計画に「“あわ”人権学習ハンドブック」の活用を位置付けるよう指導するとともに、体験を通じた学びを重視し、態度化・行動化につながるよう指導内容・指導方法の改善・充実に努めた。</li> <li>○ 中・高生による人権交流集会において、各ブロックで先進地研修等の自主的な活動を推進した。</li> <li>○ 人権教育研究指定校を指定し、人権教育の指導内容、指導方法等の実践的な研究を深め、研究成果の普及に努め、学校教育における人権教育の充実を図った。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「“あわ”人権学習ハンドブック」は作成されて6年目を迎える。現在、学校教育や社会教育における人権教育指導者への活用促進を、「人権教育の指導方法等のあり方について〔第三次とりまとめ〕」とともに図っており、これらを活用した実践的な取組が見られるようになった。</li> <li>○ 研究指定校においては、実践研究を深め、指導内容や指導方法の充実を図ることができた。また、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、PTA研修の充実にもつなげることができた。研究発表会を開催し、「徳島県人権教育推進方針」及び「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」に基づく人権教育の推進についての成果を県内外に広げることができた。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「“あわ”人権学習ハンドブック」等の積極的な活用を図り、学校教育及び社会教育の両面において推進方針に基づく人権教育のより一層の充実・発展を図る。特に研究指定校における実践事例の活用促進を図り、指導内容や指導方法の改善・充実につなげる。</li> <li>○ ホームページ上に研究指定校の研究内容を掲載し、広く県内各校での実践に活用できるようにしている。今後とも、指定校における研究の充実に向けた支援に努めるとともに、様々な機会を捉えてその研究成果を広め、普及を図っていく。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>2 社会教育における人権教育の充実</b>
<p>生涯学習の視点に立ち、交流会、研究会などの多様な学習機会を展開していくことを通じて人権尊重の意識を高め、学校・家庭・地域が一体となった人権教育を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生涯にわたる人権に関する学習機会の充実をめざし、5市1町16学級の識字学級が活動し、相互交流や学校・社会教育団体等との交流活動を実施した。学校・家庭・地域が一体となった人権教育を推進した。</li> <li>○ 大学生のサークル等による青年の相互交流や研修会、青年と子どもたちとの交流を行った。大学との緊密な連携を図る中、4大学8サークルが幅広い要請に応じた交流活動を実施した。</li> <li>○ 人権尊重の思いにあふれたエピソード等を募集し、優れた作品をパネル等の資料にして、人権教育・啓発で活用した。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 識字学級交流では、読み書き能力の向上を図り、社会生活に適應できる能力を身につけるための学習はもとより、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決へと広がりを持ち、積極的な交流活動を行うことができた。また、学校教育との交流も見られる。</li> <li>○ 人権の視点で活動しているサークルを、主に幼児・児童の人権交流活動に派遣し、人権教育のより一層の充実を図るための活動ができた。要請は数多くあったが、サークルとの日程調整に苦慮することがあった。実習との兼ね合い等により、十分活動できなかったサークルもある。</li> </ul>	

### 今後の主な取組と方向性

- 識字学級の交流活動については、生涯にわたる学習機会への充実について支援を行い、その取組の充実を図っていく。また、人権問題の解決に向けて啓発活動を推進し、世代を超えた交流ができるように支援する。
- 平成24年度からは「あったかハートつながり隊・ひろがり隊」事業をゼロ予算事業に衣替えしたところであり、これまでの経験を最大限活かして、大学サークルの相互交流と子どもたちとの交流の充実努める。

### 方針 3 教員の指導力の向上

各種の研修機会を通じ、人権教育の推進者である教員自身の人権意識を高め、資質の向上を図るとともに、指導力の向上を図ります。

#### 主な取組状況

- 50名の徳島県人権教育指導員を選任し、各学校及び市町村教育委員会等が主催する研修会等において、指導助言を行った。より一層、様々な人権問題や今日的な課題に対応できるようにするために、指導員の入れ替えを行い、幅広い要望にも応じられる体制を整えた。

#### 評価

- 人権教育推進上、各学校や市町村教育委員会からの制度活用のニーズは高い。個別人権課題や普遍的な視点についての指導を行うことにより、人権教育の推進を図ることができた。

### 今後の主な取組と方向性

- 様々な人権問題や今日的な課題に対応できる指導員の選定に心がけるとともに、幅広い研修の要望にも応えられる体制を整える必要がある。人権教育指導員の連絡会において、今日的な課題についての研修を加えるなどし、指導力の向上に努め、研修内容の充実につなげる。

### 方針 4 社会教育における人権教育推進者の資質の向上

地域社会における人権教育を推進するため、県内全域にわたる人権教育推進者の養成と資質の向上を図ります。

#### 主な取組状況

- 社会教育における人権教育を推進するため、市町村から推薦のあった推進担当者を対象として2日間の継続研修を実施した。人権教育推進方針や人権の視点でのまちづくりの講演、市町村における取組についての情報交換を行うとともに、体験的参加型による研修を行い、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。

#### 評価

- アンケート結果から、概ね受講者のニーズに応じた研修内容であったと回答を得た。しかし、受講者が固定化する傾向にあり、より実践的な指導者を育成する必要がある。

### 今後の主な取組と方向性

- 研修の成果をより深めることができるよう、参加者の出席についても働きかけ、体験的参加型研修を実施し、社会教育における人権教育推進者の資質の向上と計画的な推進者の確保につなげる。

## 基本方針5 みんなが学べる生涯学習社会の実現

<b>方針</b>	<b>1 多様な学習機会の提供</b>
<p>「徳島県立総合大学校」の開校や関係機関・団体等との連携により多様化・専門化している県民の学習ニーズや社会的要請に的確に応え、だれもが利用しやすい学習情報提供体制を構築するとともに、適切な助言や資料提供などの学習支援を行う相談支援体制の充実を図るなど、生きがいと社会参加につながる総合的な学習支援体制づくりに努めます。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ 講座・イベント、人材・指導者、団体・サークル、施設、視聴覚教材、マナビイセンター図書情報の6種類の情報を、インターネットを利用し提供している。指導者情報については、「まなびーあ人材バンク」として、運用している。人材・指導者、団体サークル情報の新規登録者を確保するために、県内大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会生涯学習ネットワーク部会で、県内5大学の教職員に指導者登録を依頼している。</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ 平成23年度（平成24年3月末現在）の閲覧ページ数は1,522,591ページであった。アクセス数を確保するために、広報リーフレットを作成したり、ツイッターを掲載し、月平均12万ページの閲覧があった。数については成果をあげた。親しみの持てるホームページなるために検討する必要がある。</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 生涯学習の成果を還元していくために、講座受講者に新しい指導者としての登録を呼びかけていく。また、市町村との連携をさらに強化し、地域の指導者と団体・サークルの発掘を行い、新規登録者の増加を図っていく。</p>	

<b>方針</b>	<b>2 学びの環境の充実</b>
<p>県民の学習意欲を高め、時代のニーズに対応した効果的・効率的な学びを実現できるよう、生涯学習関連施設の機能の充実を図ります。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ 常に新鮮で、より多くの県民に親しまれる魅力ある事業を実施するなど文化の森総合公園文化施設の機能充実を図った。</p> <p>○ 県民が「いつでも・どこでも」必要な図書館サービスを受けられることができる県立図書館を核とした県下図書館の連携による「とくしまネットワーク図書館」システムを構築し、運用している。</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ システムの運用により、自宅にいながら県立図書館の蔵書の検索・予約ができ、予約した県立図書館の蔵書を最寄りの市町村立図書館等で受け取ることができるなど、地域格差のない図書館サービスを提供することができた。</p> <p>○ 関係機関と連携し、県民が興味を持っていると思われるテーマや、時局にあったテーマで企画展示事業を実施することができた。</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 引き続き、市町村立図書館等と連携を密にしながら、システム利用促進に向けて取り組んでいく。</p>	

<b>方針</b>	<b>3 郷土に根ざした学びの推進</b>
<p>郷土について多方面から学ぶことは、郷土を誇りに思う心をはぐくむとともに、自分自身の生き方を考えるきっかけともなります。</p> <p>本県の自然、歴史、文化、人物など、郷土や地域の特性に根ざした学びの場を創出し、郷土への親しみや関心を深めるとともに、学習成果を本県教育の振興と特色ある地域づくりにつなげることのできる生涯学習を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では、教員と共同し、博物館資料を活用し、児童生徒の理解を助けるよう支援した。</li> <li>○ 資料調査及び企画展準備に、東京大学総合研究博物館、国立民族学博物館等との協力を図った。また、国立民族学博物館を通じて、国立台湾博物館との交流・連携にも着手した。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちが郷土の自然や歴史・文化に対して理解を深めることができるよう、学校での授業に博物館学芸員を講師として派遣した。教員と共同して持参した博物館資料を活用することなどにより、児童・生徒が理解を深められるよう工夫した。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 博物館と学校が連携することにより、学校教育を支援し、博物館の持つ資源とその活用方法を普及し、博物館利用者の増加につながるよう事業に取り組む。</li> <li>○ 東京大学総合研究博物館、国立民族学博物館等所蔵関連資料の調査・活用を依頼する。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>4 生涯学習推進体制の充実</b>
<p>県、市町村における生涯学習推進体制の充実を図るとともに、社会教育関係団体やボランティア等との連携や生涯学習関連事業の企画、実施にかかわる人材の育成に努め、県全体における生涯学習活動の積極的な展開を図ります。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域における生涯学習のリーダーの育成のために「女性のためのスキルアップ講座(女性地域教育推進者養成講座)」、「子どもとふれあう子育て講座(家庭教育支援者養成講座)」、「父親力ルネサンス推進講座(父親家庭・地域教育推進者養成講座)」、「子どもと放課後ののしみ隊講座(子どもの学びの場づくりコーディネーター研修)」を開催した。</li> </ul>	
<b>評価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加者は講座受講、研修、体験学習を通じて自らのスキルアップをはかるとともに、地域における学習リーダーとしての資質を向上させることができた。</li> <li>より多くの受講生の方に指導者として登録していただけるよう働きかける必要がある。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種講座の充実を図り、これらの講座で学んだ学習の成果を県民に還元していくため、受講者に「まなびーあ人材バンク」の新規指導者として登録してもらえるよう働きかけを行い、指導者の登録者数を増やしていく。</li> </ul>	

## 基本方針6 豊かなスポーツライフと人・地域が輝く「あわ文化」の実現

<b>方針</b>	<b>1 生涯スポーツの振興</b>
<p>県民一人ひとりの豊かなスポーツライフを実現するため、いつでも、どこでも、いつまでも、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツに親しめる環境づくりを推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ 「徳島県スポーツ振興基本計画」の基礎となる文部科学省の「スポーツ振興基本計画」の見直し状況の情報収集に努めた。また、「徳島県スポーツ推進審議会」を11月に開催し、新しい計画の策定に向けて、審議した。</p> <p>○ 総合型地域スポーツクラブが未設置町に対して、設立に向けた啓発事業や地域の関係者との意見交換を実施した。複数の総合型地域スポーツクラブの設立を目指す市町においては、クラブ育成アドバイザーを定期的に派遣するなど、設立に向け支援を行った。</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ 多様なスポーツイベント等に助成することで多くの県民が「するスポーツ」「みるスポーツ」に親しむことができた。また、「スポーツSHOWデー応援団事業」として、全国大会等に出場する県代表選手やチームを応援するオリジナルの横断幕等を貸し出しすることにより、幅広い視点からスポーツ振興を図ることができた。”</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 国の「スポーツ振興基本計画」の改定に合わせ、24年度中に新計画を策定する。未設置町の課題解決に向け、引き続き意見交換するとともに、新規クラブの設立に向け、取り組んでいく。今後の幅広いスポーツイベントに助成することで、多くの県民にスポーツの機会を提供し、スポーツ振興を図って行く。</p>	

<b>方針</b>	<b>2 競技スポーツの振興</b>
<p>オリンピックや国内外の大会で活躍するアスリートや指導者が育つ環境づくりを進め、本県競技力の向上を図るとともに、競技人口の拡大と地域の活性化につなげていきます。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<p>○ 鳴門渦潮高校において専門的で効果的な教育設備として、「3次元画像動作解析システム」「トレーニング機器」を整備した。また教育環境として、第2グラウンドの人工芝敷設及びクラブハウスを整備するとともに、第2体育館（仮称）の改築に係る設計に着手した。</p> <p>○ 毎年3月に、「徳島県スポーツ賞」の表彰式を実施することとし、ポカリスエットスタジアム正面玄関内に「グランプリボード」を設置し、グランプリ賞受賞者の功績を称えることとしている。平成24年3月11日の徳島ヴォルティスホームゲーム前に表彰式を行った。</p>	
<b>評価</b>	
<p>○ 施設・設備の整備を着実に進めることができた。全国大会等や国際大会で活躍した本県選手を表彰し、その功績を広く県民に周知することにより、県民全体のスポーツ活動への関心や気運を醸成し、ひいては競技力の向上の一助となった。</p>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<p>○ 「競技力向上スポーツ指定校ステップアップ事業」がより機能するよう、評価委員会の評価を生かし、成果主義を取り入れるなど団体競技の育成に努める。</p>	



<b>方針</b>	<b>3 文化遺産の発掘と継承</b>
<p>県内所在の文化財についての基礎調査や埋蔵文化財調査を行い、その保護に努めるとともに、文化財を活かした地域づくり・人づくりを推進します。</p> <p>文化財を単体ではなく、夢のあるストーリーを持つ「群」として捉え、県民の参加・参画と協働を得ながら総合的に活用することにより、文化財を活かした地域づくりをめざす「いにしえ夢街道」の実現に向け、各地域の取組を支援します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ こども伝統文化体験活動支援事業により、平成23年度は、22年度に支援した団体を中心に、34団体に補助した。</li> <li>○ 平成18年度より、いにしえ夢街道推進事業に取り組んできた。平成22年度までに、国指定史跡を中心とする4箇所のゾーン化をはかることができた。平成23年度は4ゾーンの以外の県西部、県南部地区でのゾーン化に取り組んでいる。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 修了生の人数は見込よりも少ないが、各地の文化財保護・活用団体で活動をはじめている。また、県民の参画・協働により文化財の活用を図るため設置した「いにしえ夢街道県民会議」の委員として活動した方もいるなど、一定の成果を上げている。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財ボランティアの養成については、関係市町村、県埋蔵文化財センターとも協力をしていく。修了生には、史跡案内やイベント等への参加を促し、活動の充実を図る。</li> <li>○ 「いにしえ夢街道推進事業」の一層の周知を図ることにより、県民の参加参画を促すとともに、新ゾーンの設定に取り組み、県民がふるさと徳島の歴史を再発見し、郷土を愛する心の育成を図る。</li> </ul>	

<b>方針</b>	<b>4 学校における芸術文化活動の推進</b>
<p>学校においては、芸術文化活動を通して、生活に潤いとゆとりをもたらす芸術文化に親しむ態度を養い、豊かな心をはぐくむことが求められています。</p> <p>そのため、美術や音楽など優れた芸術作品にふれる機会を充実するとともに、自主的に芸術文化活動に取り組むことのできる環境を整え、学校における芸術文化活動を推進します。</p>	
<b>主な取組状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業－派遣事業－」や「同事業－巡回公演事業－」、日本児童劇協会による「児童劇地方巡回公演」等や県の事業を活用し、小・中・高・特別支援学校に芸術家等を派遣し、講話や実技披露を行った。今年度、学校と芸術家をつなげるための人材バンクを創設し、学校に周知することで派遣回数が増えた。</li> <li>○ 平成23年11月19日から27日の間、滋賀県で第31回近畿高等学校総合文化祭が開催された。総合開会式をはじめ合唱、器楽、マーチング・パトントワーリング、日本音楽、演劇、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、新聞・小倉百人一首かるた部門に高校生が参加し、日ごろの芸術文化活動の成果を発表した。</li> </ul>	
<b>評 価</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業の周知や伝統文化に関する学習の推進により、実施会場数が着実に増加しており、優れた芸術文化に触れる機会の充実が図られている。</li> <li>○ 特定の学校が事業を希望する傾向があったが、人材バンクの周知と活用を努めることで、従来より派遣を希望する新しい学校が増え、派遣分野も広がった。</li> </ul>	
<b>今後の主な取組と方向性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一層の事業周知を図り、より多くの学校から本事業の活用希望が出るよう働きかける。さらに、人材バンクの充実と活用を促すことで、児童・生徒の文化活動のより一層の充実を図る。</li> </ul>	